

1. 本調査の目的と実施概要

(1) 調査の目的

市の現状や社会動向の変化を踏まえて野々市市第二次総合計画を策定するにあたり、市へのイメージや居住意向、現行の第一次総合計画の施策の評価などを明らかにし、今後のまちづくりの展開に資することを目的とする。

(2) 調査対象及び実施方法

無作為に抽出した 20 歳以上の市民 3,500 人を対象に、郵送で調査票を配布・回収

(3) 調査期間

令和 2 年 2 月 4 日（火）～ 3 月 11 日（水）

(4) 調査項目

調査項目
A 野々市市への印象
B 自身のまちづくりへの関わり
C 10 年後の理想のまち
D 今後の居住意向
E 施策に対する現状の満足度等

(5) 過去調査との比較

平成 21（2009）年に第一次総合計画策定のために実施した町民意識調査（以下、「2009 年調査」という。）及び平成 27（2015）年にののいち創生総合戦略策定のために実施した市民意識調査（以下、「2015 年調査」という。）と同様の設問については、調査結果を比較している。

調査時期	対象	対象数	回答数	回収率
今回調査	20 歳以上の市民	3,500 件	1,496 件	42.7%
平成 27（2015）年 <small>（ののいち創生総合戦略策定時）</small>	20 歳以上の市民	1,000 件	399 件	39.9%
平成 21（2009）年 <small>（第一次総合計画策定時）</small>	22 歳以上の市民	4,100 件	1,914 件	46.7%

2. 市民意識調査結果の概要

- ① 77.8%の方が「誇りや愛着を感じている」と回答している。
- ② 野々市市の好きなところ（自慢できるところ）として、「生活利便性」に関する内容が 45.1%と最も多かった。
- ③ 野々市市のイメージについて、「住みやすいまち」「便利なまち」といった回答が多い。
「住みやすいまち」について「そう思う」「やや思う」と回答した人は、92.1%（2009 年調査 94.0%、2015 年調査 89.0%）であった。そのうち「そう思う」と回答した人は 57.6%で、2009 年調査及び 2015 年調査より増加している。（2009 年調査 41.5%、2015 年調査 38.6%）
「便利なまち」について「そう思う」「やや思う」と回答した人は、89.7%で、2009 年調査より増加している。（2009 年調査 83.7%）
「住みやすいまち」を除く全ての項目で、「そう思う」「やや思う」の合計の割合が 2009 年調査より増えており、全体的に市へのイメージは向上している。
- ④ 野々市市での暮らしについて、「交通の利便性が高い」「子どもから高齢者まで安心して暮らせる」「子育てしやすい」という回答が多く、「地域の資源を生かした産業が根付いている」という回答が最も少ない。
全体を通して 2015 年調査より「そう思う」の割合が高まったものが多い。一方、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると、13 項目中 12 項目でポジティブな回答割合が低下しており、上記③のとおり市へのイメージは向上している一方で、具体的な暮らしについての印象はやや悪化している。
特に、市民協働のまちづくりや魅力発信が充分でないと市民が感じていることがうかがえる。
- ⑤⑥地域の活動（町内会など）に参加しているのは 52.6%、まちづくりに対し主体的に関わりたいと思っている人は 44.7%であった。いずれも、60 代以上の男性で「とてもそう思う」「ややそう思う」の割合が高くなっている。
- ⑦「10 年後の野々市市がどのようなまちであってほしいか、そのために、どのような取組を重点的に進めるべきか」という問いに対し、福祉分野及び生活環境に関する取組の回答割合が高い。
- ⑨「住み続けたい」と回答した人の割合は 84.6%に上る。居住年数が長い人だけではなく、短い人についても「当分の間今の場所に住み続けたい」という回答割合が高くなっており、居住年数に関わらず全体的に居住意向が高いことがうかがえる。「住み続けたい」と思う主な理由として、生活利便性を重視している人が多い。一方、「今の場所から移りたい」と思う理由として、「交通が不便だから」の割合が最も高く 24.2%（※）であった。
（※）④「交通の利便性が高い」という回答との矛盾があるようにみえる。
交通施策の評価については、人によって評価がはっきりと二分している。評価に地域差もあり、本町・郷・押野地区に住む回答者の評価は低くない一方、富奥地区に住む回答者の評価は他と比べて低い。
- ⑫「現状の満足度」と「今後の重要性」から見た施策の総合評価から、満足度が低く重要性が高いことから、今後重点的に実施すべきと考えられるものとして、防災・防犯・交通安全などの安全なまちづくりに関する分野や、高齢者・障害者福祉の分野がみられる。

3. 市民意識調査結果の抜粋

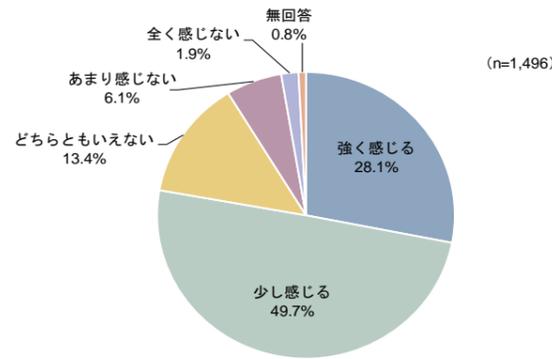
(抜粋のため、全体結果を示すグラフのみ掲載している。年齢、性別といった属性別の傾向に関しては、グラフは掲載していないが、説明のみ掲載している。)

A 野々市市への印象

① あなたは野々市市に誇りや愛着を感じますか。

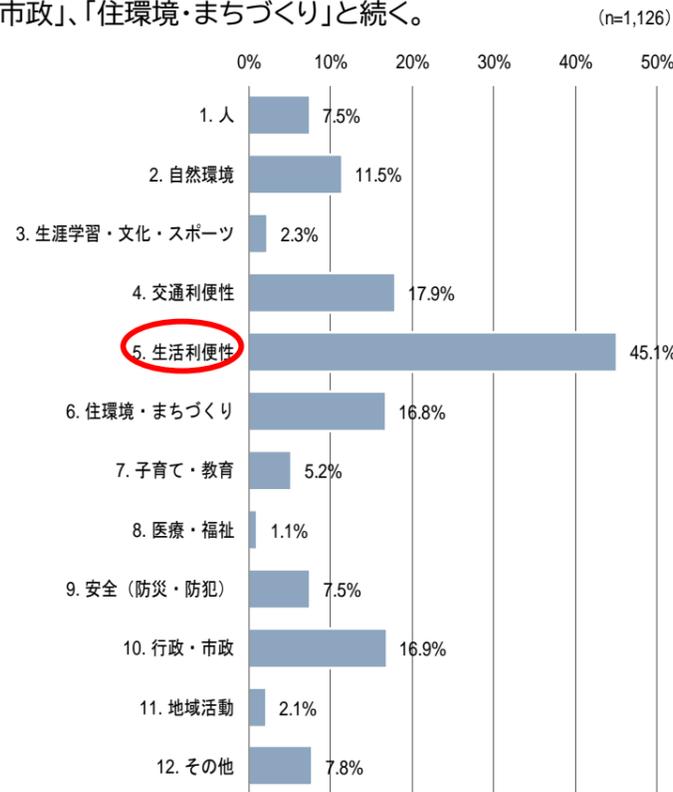
「強く感じる」「少し感じる」を合わせると、77.8%の方が「誇りや愛着を感じている」と回答している。

性別・年齢別に見ると、50代以下ではおおむね女性の方が「強く感じる」「少し感じる」を合わせた回答割合が高くなっているが、60代以上では一転して男性の方が割合が高くなっている。

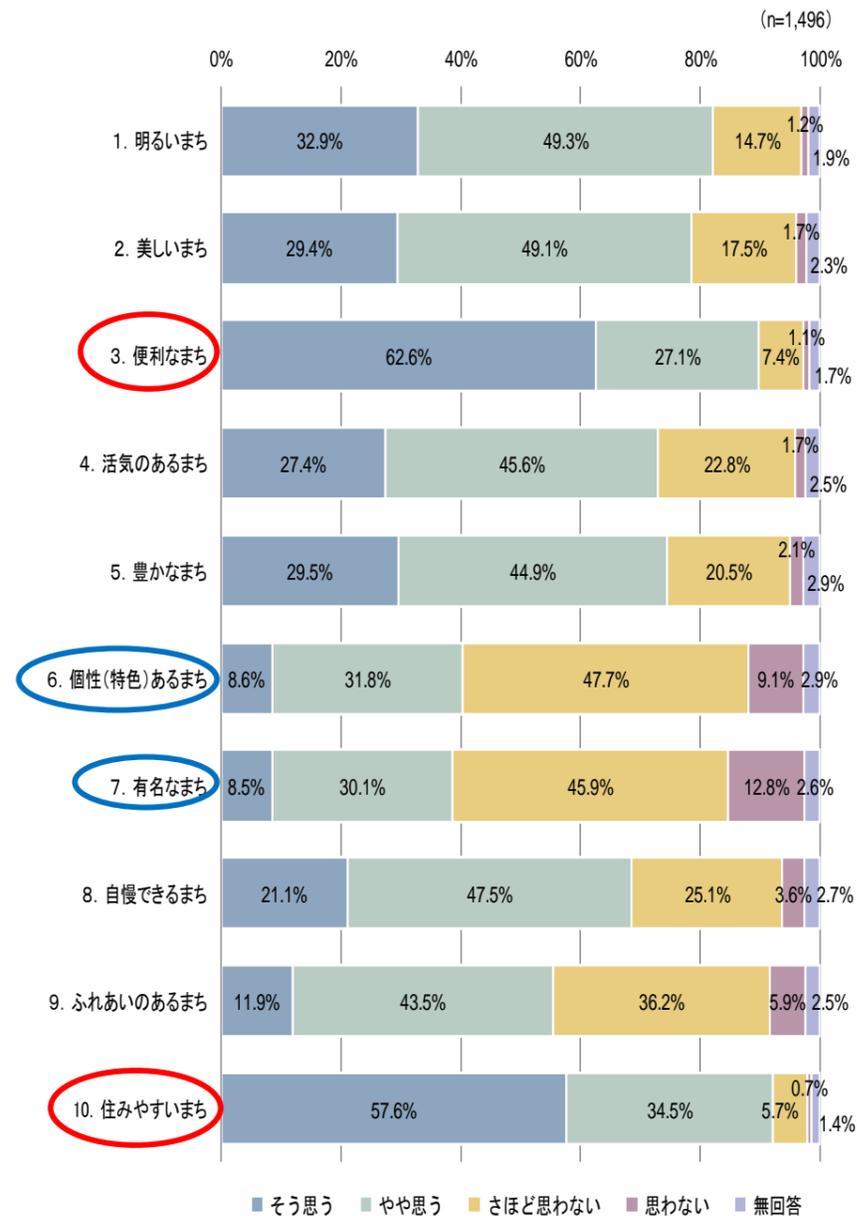


② 野々市市の好きなところ(自慢できるところ)はどこですか。【自由記述】

「生活利便性」に関する内容が45.1%と最も多く、「交通利便性」、「行政・市政」、「住環境・まちづくり」と続く。



③ 野々市市はどんなまちだと思いますか。



●「そう思う」「やや思う」の合計が最も高いのは「住みやすいまち」(92.1%)で、「便利なまち」(89.7%)が続く。

●男女ともに若い世代ほど「住みやすい」という回答割合が高い。

●「思わない」「さほど思わない」の合計が最も高いのは「有名なまち」(58.7%)であり、「個性(特色)あるまち」(56.8%)が続く。これは、2009年調査と同様の結果であった。

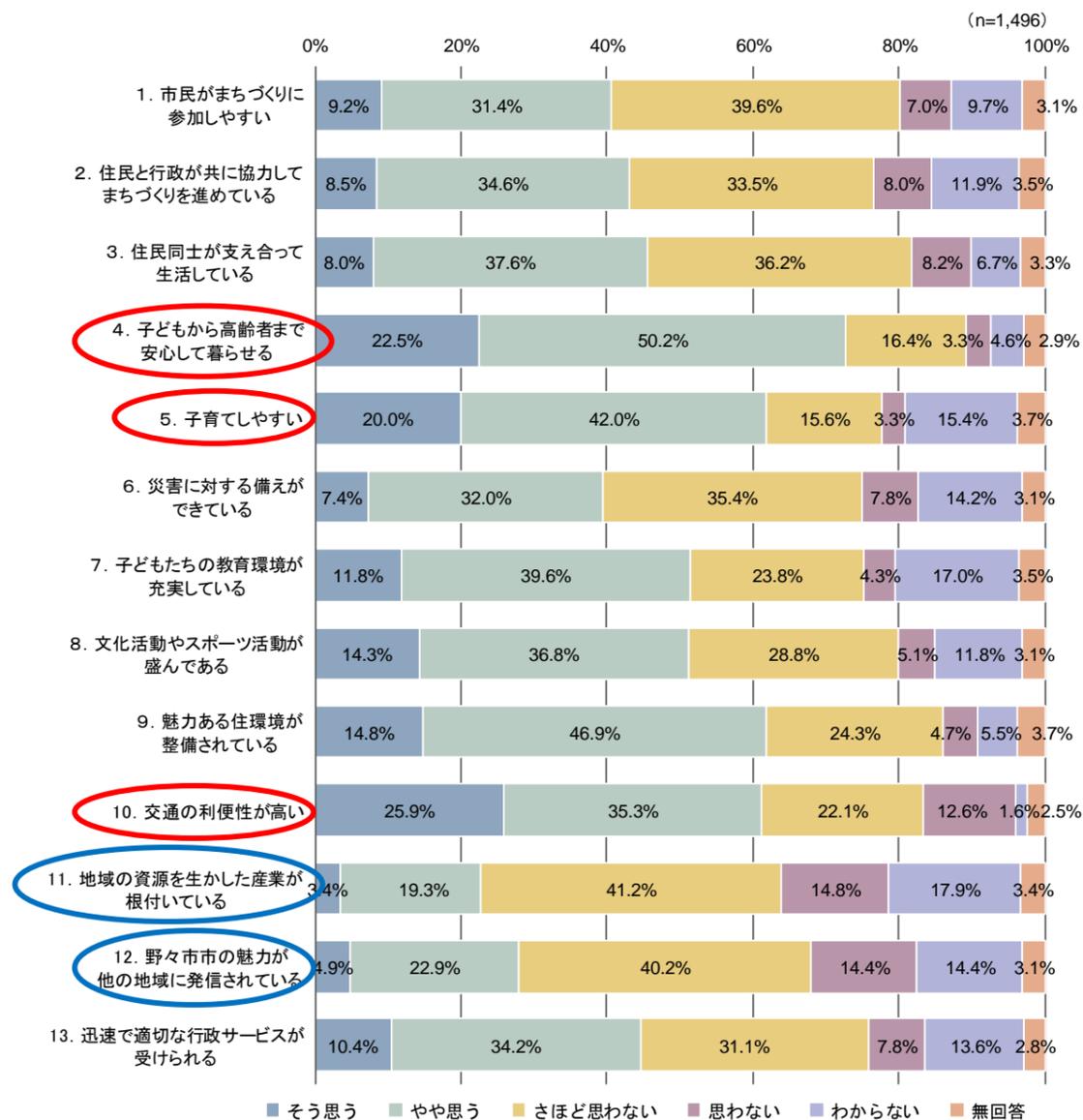
●「住みやすいまち」を除く全ての項目は、「そう思う」「やや思う」の合計の割合が2009年調査より増えている。

全体を通して「そう思う」の割合が高まったものが多い。

⇒全体的に市へのイメージは向上している。

「住みやすいまち」は2015年調査と比較して19.0%増加、「便利なまち」は2009年調査と比較して12.2%増加した。

④ 野々市市での暮らしについて、どのように感じますか。



●「**そう思う**」の割合が最も高いのは、「**10. 交通の利便性が高い**」で25.9%となっている。「**4. 子どもから高齢者まで安心して暮らせる**（22.5%）」、「**5. 子育てしやすい**（20.0%）」が続く。

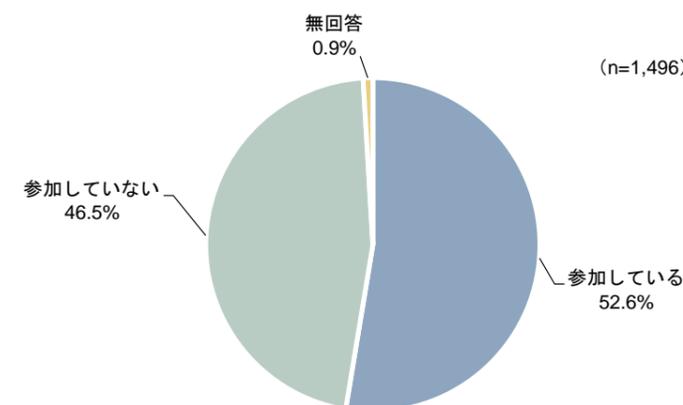
●「**思わない**」の割合が最も高いのは、「**11. 地域の資源を生かした産業が根付いている**」で14.8%となっており、「**12. 野々市市の魅力が他の地域に発信されている**（14.4%）」が続く。

●全体を通して 2015 年調査より「**そう思う**」の割合が高まった項目が多いが、「**そう思う**」「**やや思う**」を合わせたポジティブな回答割合は13項目中12項目で低下しており、前ページ③のとおりまち自体のイメージは向上している一方で、市への**暮らしについての印象はやや悪化している**と読み取れる。

●「**さほど思わない**」「**思わない**」の割合が大幅に高くなった項目として、「**1. 市民がまちづくりに参加しやすい**（26.0%増）」、「**12. 野々市市の魅力が他の地域に発信されている**（24.5%増）」、「**2. 住民と行政が共に協力してまちづくりを進めている**（22.2%増）」などがある。**市民協働のまちづくりや魅力発信が充分でない**と市民が感じていることがうかがえる。

B 自身のまちづくりへの関わり

⑤ あなたは、地域の活動(町内会など)に参加していますか。

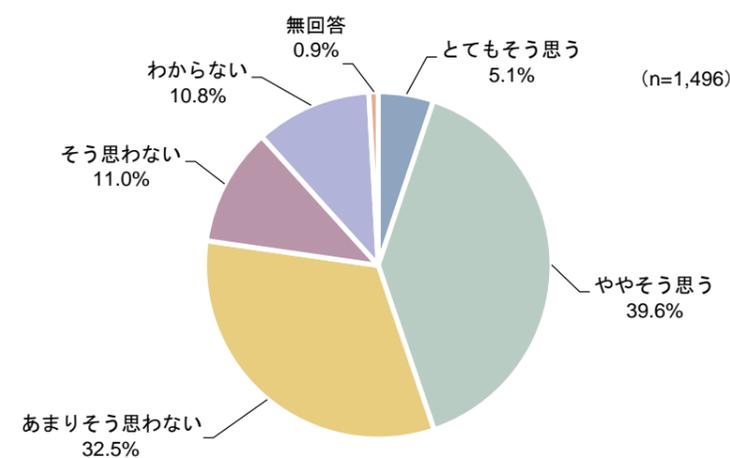


●「**参加している**」の割合が**52.6%**、「**参加していない**」の割合が**46.5%**で、ほぼ半数である。

●性別・年齢別に見ると、男性・女性いずれも20代の「**参加している**」の割合が他と比べて著しく低い。

●**男性は、年齢が高くなるにつれて「参加している」の割合が高くなり、60代で67.4%、70歳以上で73.9%**となっており、60代及び70歳以上の女性で「**参加している**」と回答した人の割合(約60%)と比べて高い。

⑥ あなたは、野々市市のまちづくりに対し、主体的に関わりたいと思いますか。



●「**とてもそう思う**」「**ややそう思う**」を合わせると、**まちづくりに主体的に関わりたいと思っている人の割合は44.7%**となり、「**あまりそう思わない**」「**そう思わない**」を合わせた回答割合(43.5%)よりもやや高くなっている。

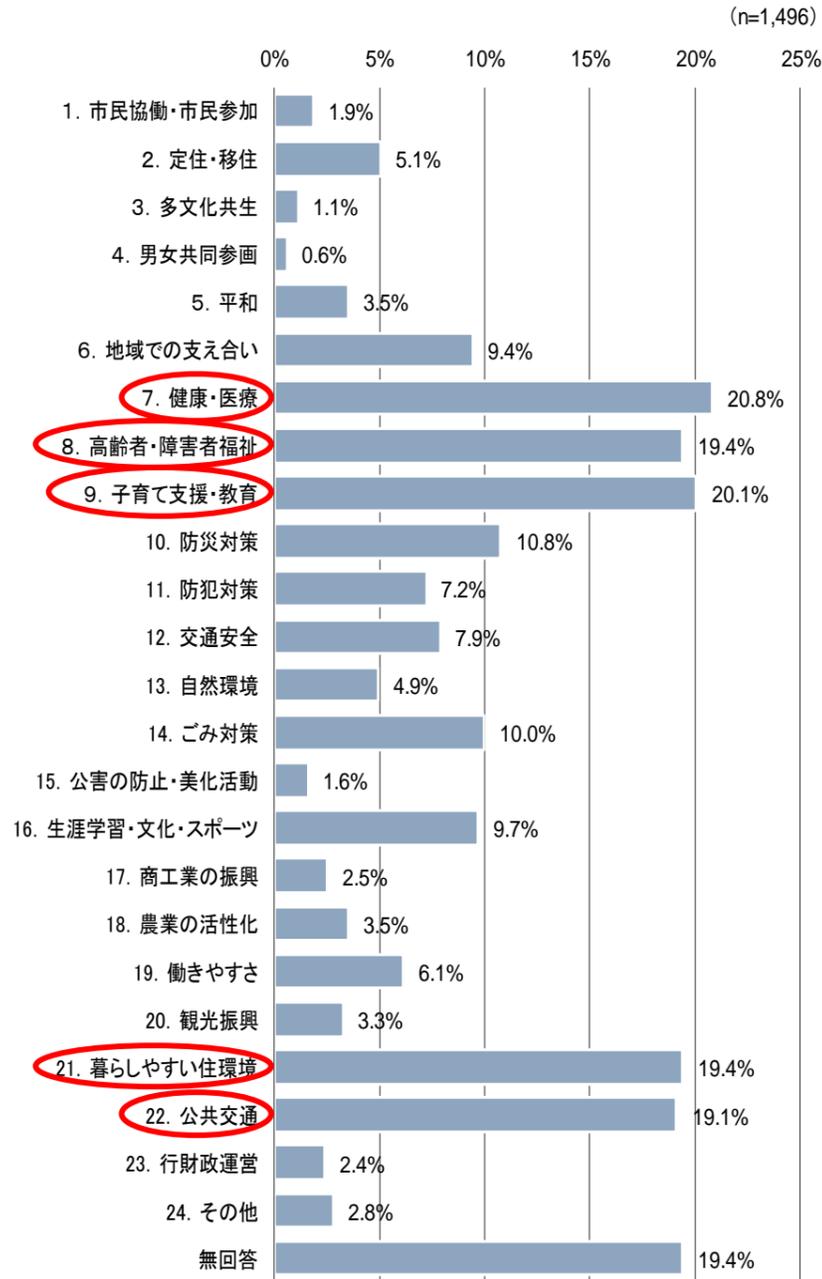
●性別・年齢別に見ると、上記⑤の**地域活動への参加状況と同様、男性は年齢が高くなるにつれて「とてもそう思う」「ややそう思う」の回答割合が高くなっている。**

●男性の60代では58.4%の人が「**とてもそう思う**」「**ややそう思う**」と回答しており、女性の60代で「**とてもそう思う**」「**ややそう思う**」と回答した人の割合(37.9%)と比べて高い。

野々市市第二次総合計画策定に係る「市民意識調査」結果報告（暫定版）

C 10年後の理想のまち

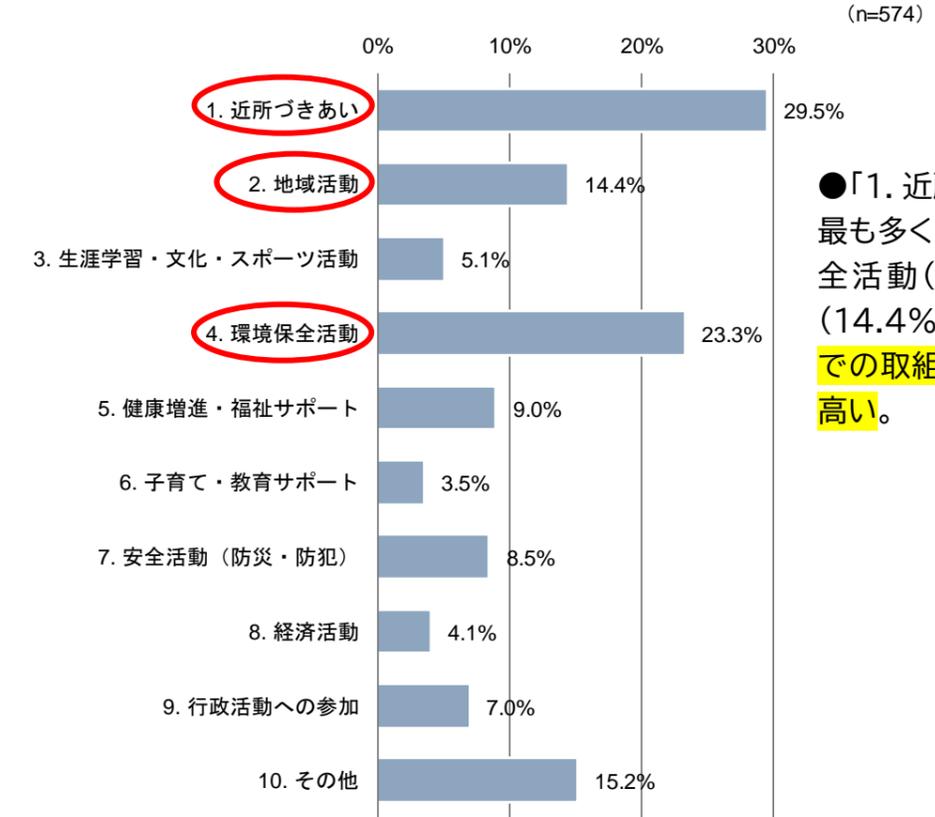
⑦これから10年後の野々市市がどのようなまちであってほしいと思いますか。
そのために、どのような取組を重点的に進めるべきだと思いますか。【キーワード複数回答】



●「7. 健康・医療」の割合が最も高く20.8%となっている。次いで、「9. 子育て支援・教育(20.1%)」、「8. 高齢者・障害者福祉(19.4%)」となっており、福祉分野に関する取組の回答割合が高い。

●「21. 暮らしやすい住環境(19.4%)」、「22. 公共交通(19.1%)」といった生活環境に関する取組の回答割合も高い。

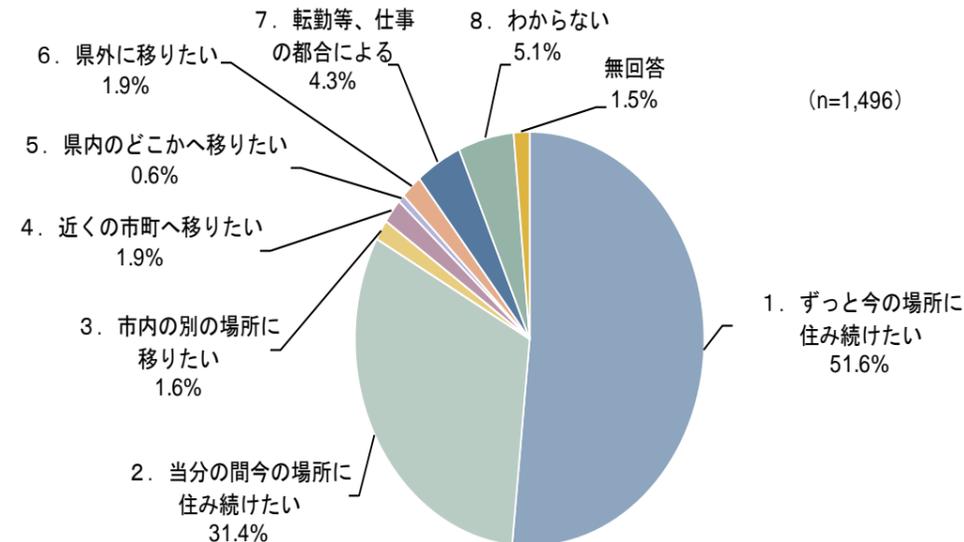
⑧あなたが思う10年後の理想的な野々市市を実現させるために、野々市市に住む人・働く人として取り組みたい(取り組むことができる)と思えることはどのようなことですか。【自由記述】



●「1. 近所づきあい」に関する内容が最も多く29.5%、次いで「4. 環境保全活動(23.3%)」、「2. 地域活動(14.4%)」となっており、地域や近所での取組に関する内容の回答割合が高い。

D 今後の居留意向

⑨あなたは、今後も野々市市に住み続けたいですか。



●市内での居留意向のある人の割合(選択肢1から3の合計)は84.6%と高くなっている。

●長く暮らしている人に加え、居住年数が短い人についても「2. 当分の間今の場所に住み続けたい」という回答割合が高くなっており、居住年数に関わらず全体的に居留意向が高い。

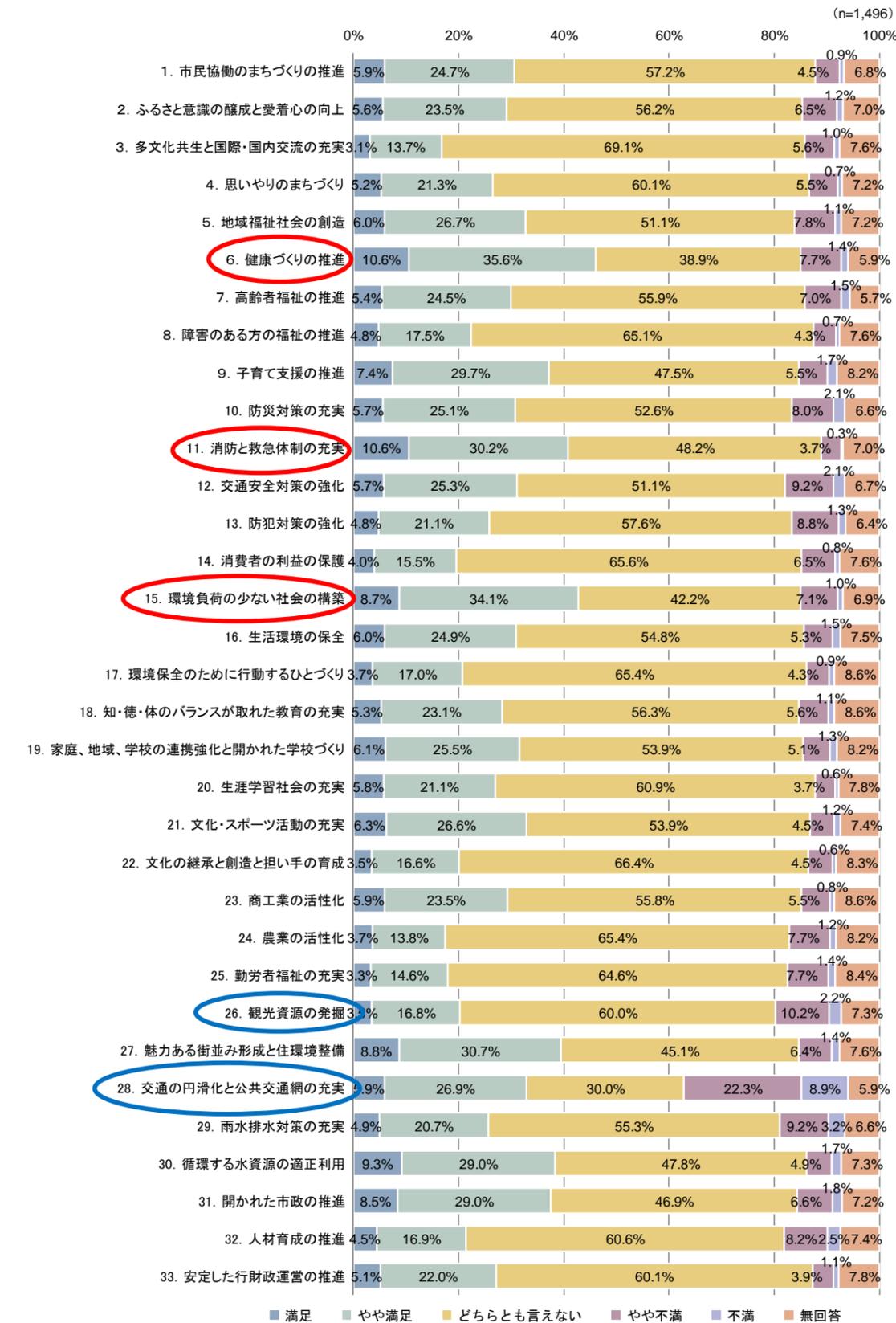
●住み続けたいと思う主な理由として「買い物が便利(62.0%)」、「生活・住環境が良い(56.5%)」、「交通が便利(33.2%)」があり、生活利便性を重視している人が多い。

●「今の場所から移りたい」と思う理由として、「交通が不便だから」の割合が最も高く24.2%、次いで「老後の生活が不安だから(または高齢のため)(16.5%)」が続く。

野々市市第二次総合計画策定に係る「市民意識調査」結果報告（暫定版）

E 施策に対する現状の満足度等

⑩あなたが日ごろ感じている「現状の(野々市市の施策の)満足度」についての考え



●現状について「満足である(「満足」と「やや満足」の合計)」の割合が高く、かつ、満足度の平均得点が高いものとして、「6. 健康づくりの推進」「11. 消防と救急体制の充実」「15. 環境負荷の少ない社会の構築」がある。

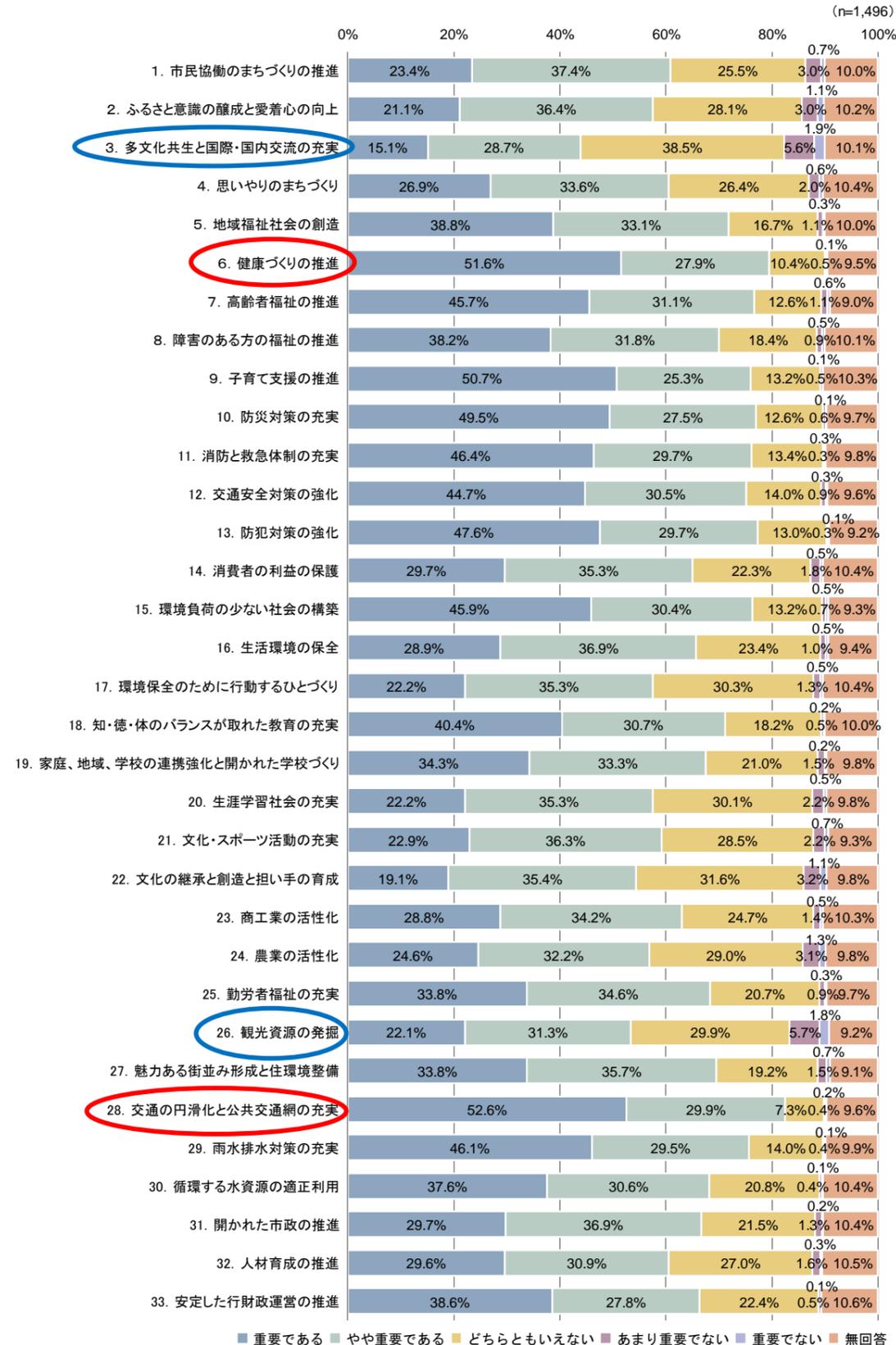
●現状について「不満である(「不満」と「やや不満」の合計)」の割合が高く、かつ、満足度の平均得点が低いものとして、「28. 交通の円滑化と公共交通網の充実」「26. 観光資源の発掘」がある。

順位	第一次総合計画に掲げた施策	平均得点
1	11.消防と救急体制の充実	3.51
2	6.健康づくりの推進	3.49
3	15.環境負荷の少ない社会の構築	3.46
4	27.魅力ある街並み形成と住環境整備	3.42
5	30.循環する水資源の適正利用	3.42
6	9.子育て支援の推進	3.39
7	31.開かれた市政の推進	3.39
8	21.文化・スポーツ活動の充実	3.35
9	19.家庭、地域、学校の連携強化と開かれた学校づくり	3.33
10	1.市民協働のまちづくりの推進	3.33
11	5.地域福祉社会の創造	3.31
12	16.生活環境の保全	3.31
13	23.商工業の活性化	3.31
14	20.生涯学習社会の充実	3.30
15	33.安定した行財政運営の推進	3.28
16	18.知・徳・体のバランスが取れた教育の充実	3.28
17	2.ふるさと意識の醸成と愛着心の向上	3.28
18	7.高齢者福祉の推進	3.27
19	4.思いやりのまちづくり	3.27
20	10.防災対策の充実	3.26
21	12.交通安全対策の強化	3.25
22	8.障害のある方の福祉の推進	3.23
23	13.防犯対策の強化	3.21
24	17.環境保全のために行動するひとづくり	3.20
25	22.文化の継承と創造と担い手の育成	3.20
26	14.消費者の利益の保護	3.17
27	29.雨水排水対策の充実	3.16
28	32.人材育成の推進	3.14
29	3.多文化共生と国際・国内交流の充実	3.13
30	24.農業の活性化	3.12
31	25.勤労者福祉の充実	3.12
32	26.観光資源の発掘	3.10
33	28.交通の円滑化と公共交通網の充実	2.99

平均得点・・・現状の満足度の選択肢「満足」を5点、「やや満足」を4点、「どちらとも言えない」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点と換算し、それぞれの各得点を回答数に掛け合わせたものの合計を全回答数から無回答数を除いた回答数で割り算。

野々市市第二次総合計画策定に係る「市民意識調査」結果報告（暫定版）

①まちづくり全体から見た「今後の重要性」についてのあなたの考え



●まちづくり全体から見て「重要である(「重要である」と「やや重要である」の合計)」の割合が高く、かつ、重要性の平均得点が高いものとして、「28. 交通の円滑化と公共交通網の充実」「6. 健康づくりの推進」がある。

●まちづくり全体から見て「重要でない(「重要でない」と「あまり重要でない」の合計)」の割合が高く、かつ、重要性の平均得点が低いものとして、「3. 多文化共生と国際・国内交流の充実」「26. 観光資源の発掘」がある。

順位	第一次総合計画に掲げた施策	平均得点
1	28.交通の円滑化と公共交通網の充実	4.49
2	6.健康づくりの推進	4.44
3	9.子育て支援の推進	4.40
4	10.防災対策の充実	4.39
5	13.防犯対策の強化	4.37
6	11.消防と救急体制の充実	4.35
7	29.雨水排水対策の充実	4.34
8	15.環境負荷の少ない社会の構築	4.33
9	7.高齢者福祉の推進	4.32
10	12.交通安全対策の強化	4.31
11	18.知・徳・体のバランスが取れた教育の充実	4.23
12	5.地域福祉社会の創造	4.21
13	8.障害のある方の福祉の推進	4.18
14	30.循環する水資源の適正利用	4.17
15	33.安定した行財政運営の推進	4.17
16	25.勤労者福祉の充実	4.11
17	19.家庭、地域、学校の連携強化と開かれた学校づくり	4.11
18	27.魅力ある街並み形成と住環境整備	4.11
19	31.開かれた市政の推進	4.06
20	14.消費者の利益の保護	4.02
21	16.生活環境の保全	4.02
22	23.商工業の活性化	4.00
23	32.人材育成の推進	3.98
24	4.思いやりのまちづくり	3.94
25	1.市民協働のまちづくりの推進	3.89
26	21.文化・スポーツ活動の充実	3.87
27	17.環境保全のために行動するひとづくり	3.86
28	20.生涯学習社会の充実	3.85
29	24.農業の活性化	3.84
30	2.ふるさと意識の醸成と愛着心の向上	3.82
31	22.文化の継承と創造と担い手の育成	3.75
32	26.観光資源の発掘	3.73
33	3.多文化共生と国際・国内交流の充実	3.55

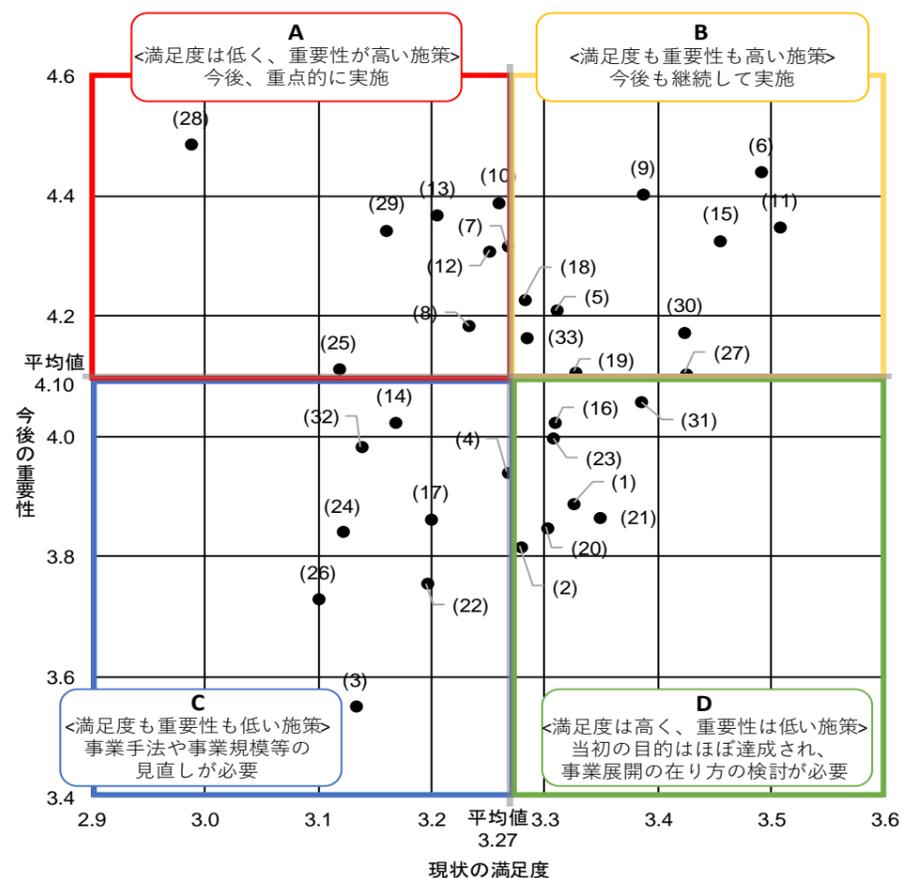
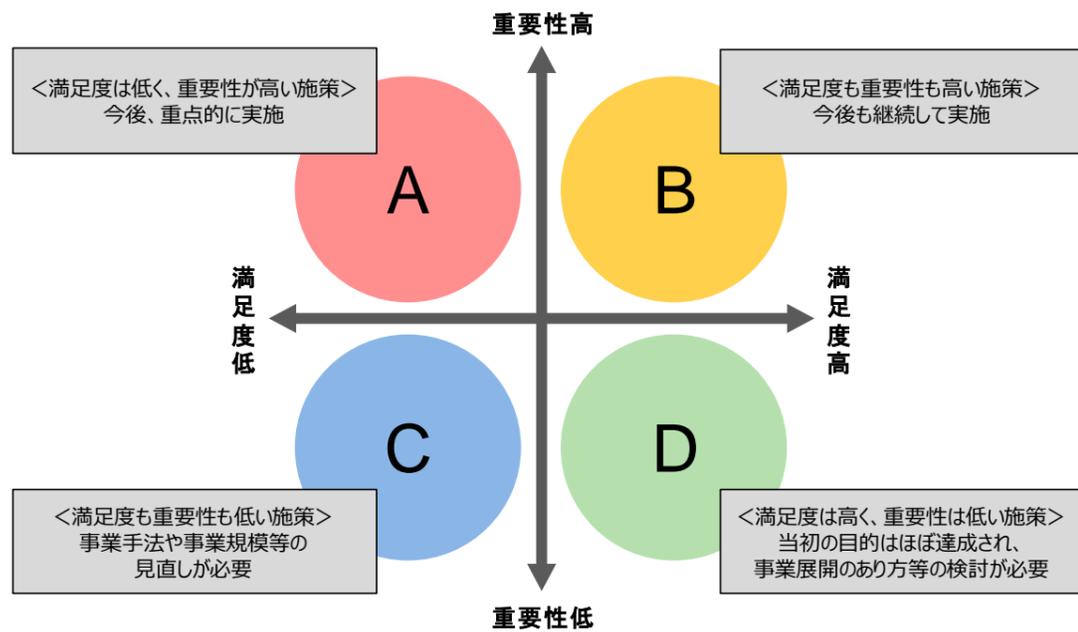
野々市市第二次総合計画策定に係る「市民意識調査」結果報告（暫定版）

⑫「現状の満足度」と「今後の重要性」から見た施策の総合評価

<評価方法>

「現状の満足度」と「今後の重要性」について平均得点を使用し、4象限のマトリックス分析をおこなった。

- (A)満足度は低く重要性が高い施策…今後重点的に実施
- (B)満足度も重要性も高い施策…今後も継続して実施
- (C)満足度も重要性も低い施策…事業手法や事業規模等の見直しが必要
- (D)満足度は高く重要性は低い施策…当初の目的はほぼ達成されたものとして事業展開の在り方等の検討が必要



<評価結果>

満足度が低く重要性が高いことから、今後重点的に実施すべきと考えられる施策として、防災・防犯・交通安全などの安全なまちづくりに関する分野や、高齢者・障害者福祉の分野がみられる。

A 今後、重点的に実施する施策	
7	高齢者福祉の推進
8	障害のある方の福祉の推進
10	防災対策の充実
12	交通安全対策の強化
13	防犯対策の強化
25	勤労者福祉の充実
28	交通の円滑化と公共交通網の充実
29	雨水排水対策の充実

B 今後も継続して実施する施策	
5	地域福祉社会の創造
6	健康づくりの推進
9	子育て支援の推進
11	消防と救急体制の充実
15	環境負荷の少ない社会の構築
18	知・徳・体のバランスが取れた教育の充実
19	家庭、地域、学校の連携強化と開かれた学校づくり
27	魅力ある街並み形成と住環境整備
30	循環する水資源の適正利用
33	安定した行財政運営の推進

C 事業手法や事業規模等の見直しが必要な施策	
3	多文化共生と国際・国内交流の充実
4	思いやりのまちづくり
14	消費者の利益の保護
17	環境保全のために行動するひとづくり
22	文化の継承と創造と担い手の育成
24	農業の活性化
26	観光資源の発掘
32	人材育成の推進

D 事業展開の在り方の検討が必要な施策	
1	市民協働のまちづくり
2	ふるさと意識の醸成と愛着心の向上
16	生活環境の保全
20	生涯学習社会の充実
21	文化・スポーツ活動の充実
23	商工業の活性化
31	開かれた市政の推進